

授業改善書

科目名	産業心理学（産業・組織心理学）
担当者	川久保 惇

授業の概要

産業心理学とは、会社や組織の中での人々の意識、態度や行動などについて研究する学問領域である。人々が仕事に取り組む際に直面するさまざまな問題を心理学の立場から実証的に考えて、解決策を探る。「どうしたら仕事へのモチベーションが高まるのか」、「良いリーダーとはどういう人なのか？」や「仕事のストレスにどう対処すればよいか」などの疑問を探求し、働く人の心と身体の健康を守るための知見を提供することを目指した。授業は主に講義形式であったが、対面講義の際には映像視聴も取り入れた。

授業の問題点

学生の評定をみると、多くの項目の平均が 4-5 点であったが、授業外学習（予習や復習など）をしましたか」と「質問や発言をしましたか」という項目については、それぞれ 3.00、2.91 であった。授業外学習や授業内での教員と学生間の双方向のやりとりはあまり行われなかったと学生は感じたようである。

学生の授業満足度

授業満足度については、「授業の内容はあなたにとって得るところのあるものでしたか」、「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」のどちらも 4.3 点程度であったことから、概ね多くの学生が授業に対して満足していたと考えられる。一方で、それぞれの項目に対して 5 ではなく 4 と回答している学生も一定数いたことから、そうした学生の満足度をいかに高めることができるかが今後の課題となるであろう。

授業改善の課題と方策

授業改善の方策としては以下の 2 点が挙げられる。一点目は、授業を振り返る課題を提示することである。講義時間内で全ての学習を完結させるのではなく、授業外に取り組むことが必要な内容も講義に盛り込んでいきたい。2 点目は、授業内で学生同士のディスカッションを促進するようなワークの導入である。学生が受動的に取り組むだけでなく、積極的かつ能動的に取り組めるような工夫を授業に取り入れていきたい。

また、現在はクラスが 2 つのグループに分かれているが、授業内で出た学生の意見などをお互いのグループに共有するなどにより、グループ間での学習成果が同一のものになるようにしていきたい。

その他

特記事項なし。